



「人間力」を高める

校長 利根川 典子

今年度本校では、校内限定公開で文化祭を開催しました。緊急事態宣言下のため、密を避けるために半数ずつ登校して午前午後の2展開とし、外部からのお客様もありません。それでも昨年はできなかった文化祭が、今年は開催できたことは大きな一歩となりました。どんな状況でも悲観的にならず、できることに感謝し、全力で取り組むのが西高生の素晴らしいところです。生徒たちは、様々な制限がある中で創意工夫し、西高の伝統を後輩に繋げるとともに、新しい伝統を創り出しました。一人一人がそれぞれの場で各々の力を発揮し、西高生全員の力を結集させた素晴らしい「西高祭」になりました。

文化祭などの学校行事は生徒にとって楽しさを追求するばかりでなく、「人間力」を高める絶好のチャンスでもあります。文化祭にあたって生徒には「人間力」を構成する3つの要素、「能力」「コミュニケーション力（協力・協働）」「意欲・熱意」を意識して取り組むよう話をしました。この3要素は、将来、社会で活躍するために必要とされる力でもあります。そして足し算ではなく掛け算で評価されます。どんなに能力が高くても、仲間との協力がなければ何もできません。仲間と協働し、熱意をもって取り組むことによりプロジェクトは成功します。今後の学校生活（部活動やクラス活動）でも、この3つの要素を意識して行動し、「人間力」を高めてほしいと思っています。勉強ができるだけでは社会では認められません。西高生には、本校の3年間で知性を磨くとともに、行事や部活動を通して、信頼される「総合的な人間力」を身に付けてくれることを期待しています。



【参考】「人間力」とは

- ・・・「内閣府人間力戦略研究会」は「人間力」を『社会を構成し運営するとともに、自立した一人の人間として力強く生きていくための総合的な力』と定義した。「人間力」を構成する3つの要素として
- 知識、論理的思考力、創造力などの「知的能力的要素」
 - コミュニケーション力、リーダーシップ、他者を尊重する心などの「社会・対人関係力的要素」
 - 意欲、忍耐力、自己表現力などの「自己制御的要素」
- の3要素をあげています。

1 夏季休業中の活動

① 第3学年夏季補講

3年生対象に23講座が夏季休業中に開講されました。酷暑の中、延べ約800名の生徒が受講し、熱心に学習に取り組みました。

② サマーセミナー (7/22~7/25)

3年生の希望者58名が、志賀高原にて3泊4日の日程で、1日10時間以上の自学自習に取り組みました。コロナ禍の影響もあり、例年より少ない人数の参加となりましたが、参加した生徒たちは、真剣に学習に取り組み、部活動中心の生活から受験生活へ切り替える貴重な機会となり、今後の受験生活に向けて、大きな成果を上げることができました。



③ オーストラリア姉妹校とのオンライン交流

コロナ禍により止まっていたオーストラリア・クイーンズランド州のタンボリン・マウンテン・ステイト・ハイスクールとの交流が再開しました。今年度は県の「ハイブリッド型国際交流事業推進校」の指定を受けてZoomを使ったオンライン交流に挑戦です。

7月のテストミーティングから有志生徒が集まって準備を進め、両校の教員も打ち合わせを重ねてきました。8月10日のミーティングでは、学校生活や日本文化について写真や動画を共有しながらプレゼンして意見交換をしました。画面を通して効果的に伝えるためにあえて文字を使ったり、カメラの前で楽器演奏したりと生徒たちの工夫がみられました。今後も対面交流復活を楽しみに、暖かい交流を続けていきたいと思えます。



④ 全国総合文化祭和歌山大会 (7/31~8/6)

全国高等学校総合文化祭（紀の国和歌山総文2021）が、開催され、本校からは書道部の塩野谷笑菜さんの臨書「書譜」、美術部の中原穂乃花さんの油彩作品「世界の芽」が、埼玉県を代表して出展されました。さらに塩野谷さんの作品は、書道部門で特別賞を受賞しました。



⑤ よりみち西高講座

後援会企画によるよりみち西高（講）座を実施しました。1回目は9月25日（土）助産師の櫻井裕子先生による「見つめようココロとカラダ」をテーマに若者に対するあたたかいメッセージをいただきました。2回目は10月2日（土）哲学者の内山節先生による「生きるってなんだろう」をテーマに人や自然との関係から自分の役割を感じ取って生きる意味を見出せることをおしえていただきました。今年度は西高記念館M1でリモート会議システムZoomの併用により生徒、保護者、後援会、斜面林友の会、西麗会、教職員等多くの参加があり、座談会でも活発に意見交換が行われました。